

prayer

Chelsea Maud

私達の祈りが
届きますように

Light in your heart

心に明かりをともそう
暗闇の中
冷たい冬の夜
行き先が分からなくなり不安になった時
心に明かりをともそう

私の心の明かりは弱くても
きっとあなたは見つけてくれる
あなたの心の明かりがあれば2倍明るくなる
あなたと私の心の明りが
友を呼び
心の明かりは何倍にも明るくなる

まだ今は冷たい冬の夜
不安に押し潰れそうな日々
でもきっと私達の心の明かりが
暖かい春へと導いてくれるだろう

心に明かりをともそう

Mercy on us

澄み切った青い空よ

あなたは見ていた

大地が轟き

地上の全ての物が震え上がったあの時

我らが恐怖に巻き込まれたあの瞬間を

泣きじゃくる子供を抱え

揺れる大地の上に二本足で踏ん張り

仰ぎ見た視線の先には

澄み切った青い空

絶え間なく襲う大地の揺れ

絶望を覚え

子供を抱きしめながら

救いを求めた青い空

我らに平穏を

安心して過ごせる日々を与え給え

我らの苦しみも悲しみも

我らの全てを知っている澄み切った青い空よ

我らを守り給え

我らを守り給え

Long journey to home ～家路

電車が止まり
帰宅手段を失った人々が
駅前で立ち尽くす
渋滞した車道で
ブレーキランプが闇夜を照らす

だが僕は立ち止まらない
今すぐ会いたいから
あなたの無事をこの目で確認したいから
朝日を待たず家路へ向かう

余震に心臓の鼓動が高鳴る
臆病になる我が身を奮い立たせ
両脇に友を携え歩く

一步一步暗闇を進む
人気の無い歩道に出ると
何故か酷使した脹脛が痛み出す

次第に一步が重くなる
ビジネスシューズを脱ぎ捨てたくなる
残りの距離が背中に重くのしかかる
無事家に辿り着けるのだろうか
心の中で問いただす

暗雲漂う中 僕はこう叫ぶ
これは戦いなのだ
前に進め 進め 進め
かつて戦場から帰還した人々は
もっと長い家路を辿ったに違いない
半日かかる距離が何だ
真冬の寒さが何だ

自然の威力を体感し
人間の無力さを痛感した日
だが人間として限界に挑戦する

今日始まったこの世界に
まだ希望があると信じたい

計り知れない苦難が待っていようと
あなたの寝顔を見た時の
安堵感に勝るものは無い
だから僕は立ち止まらず
前に進む 進む 進む

大ナマズ 大アバレ

地面のずーと下の下のそのまた下にね
おーきな おーきな ナマズさんが住んでいるの
その大きなナマズさん
眠っている時は とっても静か
だけどいったん怒って暴れだすところじゃ大変
なかなか怒りを静められない
ドタンバタン大アバレ

大ナマズさんがアバレて怖かったかな？
大丈夫だったかな？
今はまだアバレているけれど
そのうち疲れて静かにお休みするんだよ

え？
じゃあ大ナマズさんにいい子いい子してあげればいいって？
そうだね、そうできたらいいね
え？
お手紙送ってみる？
大ナマズさん、もうアバレるのは止めて下さい
大事なお髭がなくなっちゃいますよ
だから早くおねんねして下さい

Beyond our expectation

「想定外」

みな口を揃えて言うが
本当にそうなのであろうか

地球の長い歴史に比べると
人間の歴史など砂粒に等しい
地球誕生のその時から
未曾有の出来事が
数多く起こってきたに違いない

「想定外」は想像力の欠如

大いなる自然の中に生きるのであれば
既存のデータや知識だけに頼るのではなく
ある一点だけを突き詰めるのではなく
想像力を持ち
あらゆる視点から
あらゆる可能性を想定し
物事を見極めなければならない

「想定外」と口から発するのは
人間が自然の力を軽んじ
傲慢に生きてきた証明に過ぎない

虫の知らせ

我が家の玄関で越冬した
カブトムシの幼虫君
寒い冬の間は
土の入った透明ケースの中
一度も姿を現さなかった

3月のある暖かい日
ケースの外側から見える場所に
姿を現した幼虫君
昨年秋見た時よりずっと大きく成長していた

後で気付いたことだが
幼虫君が久しぶりに姿を現した日は
大地震が起こった5日前
サナギになる場所を探していたと夫は言うが
今まで姿を現さなかった幼虫君が
突如姿を現したことが不思議でたまらない

もしかしたらこの小さな生物は
地面を通じて異変を感じ
逃げ場所を見つけようとしていたのかもしれない

これこそ虫の知らせか

I will guide you

私が守りたいもの

あなたの命

あなたの健康

あなたの未来

嵐がきたら

この身であなたを覆い雨風を防ごう

炎が襲ってきたら

あなたを背負い炎から遠ざけよう

地震が起こったら

あなたに覆いかぶさり

落ちてくる物から守ろう

飢餓に襲われたら

地の果てまで食べ物を探し回ろう

私は空腹で構わない

あなたが病魔に襲われたら

私の全てを持って

あなたを病魔から救おう

戦争が起きたら

あなたの手をしっかりと握り締め

平和が訪れるまで逃げよう

血と骨と肉を分けた

あなたは私の全て

私が生きている理由なのだから

あなたを取り巻く地上の全てを

守りたい

Take my hand

下ばかり見て俯いていないで
上を見上げてごらん
辺りは暗く何も見えないけれど
冬空に瞬く星々があなたを見守っている

見えないかしら
星輝く天から
あなたに差し出した私の手
あなたが願うように
私もあなたと繋がっていたい
たとえあなたの傍に留まることが出来なくても

夜空に手を差し伸べて
もう一度私の手を握り締めて欲しい
今やもう一緒に生きることは出来ないけれど
私はここに居る
あなたの頭上高いところで
いつでもどこでも
あなたを見守っている

あなたが手を差し伸べてくれたら
私は必ず手を差し出しあなたの手を握るだろう
たとえあなたの手の温もりを感じる事が出来なくても
魂は繋がっている
いつまでも
永遠に・・・

Lost souls

ふわふわふわり
春の木漏れ日に膨らむ
ピンク色の花々が
我らに季節を告げてくれた

我らの心の時計は止まったまま
この世の出来事とは思えないあの地震
あの瞬間に止まってしまった
生き残ったものも死んだものも
2時46分に凍りついた

行き場の無い我らの魂が
ふわふわふわり
どこへ行く当ても無く
恐怖と悲しみのトンネルを彷徨う

でも桜は我らに季節を告げた
やわらかい薄ピンク色の花を見て
懐かしくなる
何か温かいものが滲み出てくる
そしてふと我に返る
季節は巡っている
時計は時を刻んでいる
もう前に進む時が来た
心の時計の針を合わせよう

